

福井の 古建築あれこれ

〈3〉

高椋家表門

坂井郡丸岡町

丸岡から主要地方道の勝山・丸岡線を勝山へ向かい、久米田の手前で左に折れて少し行くと、野中山王に響く。この北西寄りのはずれにある高椋節夫家の表門は、丸岡城の不明門(あかずのもん)を移したと伝わっている。不明門とは、天守がたっている丘の北寄り東側にあった重層の

門である。高椋家の表門を発見したのは城郭研究の第一人者、「鬼板及び大棟は福井石を削り、門扉金具、破風が出入り口になっている」とい

わかりやすく解説すれば、「この門は、正面の柱間が三つあって、中央の間に懸魚(けぎょ)など、細部の様子はすべて天守の手法と同じである」とな

丸岡城を離れてもう百二十年になるが、いつになっても生まれ故郷は恋しいもの。高椋家の表門は、今日も天守が見えるはるか遠くの小高い丘を、静かに見つめている。

丸岡城の元不明門 上層部失ったが 武骨で風格漂う

ところが、残念なことに現状はみでの通り。上層部がなく、一階しかない。当然も上層部は少し改変されていたというが、今度はずかりなくなっていて、こ

古風なたずまいを見せる高椋家表門。福井震災で二階部分が大きな被害を受けたため、一階建てに改築されたという

